

熊野川

川に生き、川を守る
歴史や文化を育んできた「熊野川」を体感し、人と自然との関わりについて改めて一緒に考えてみませんか

紀伊山地の霊場と参詣道

世界遺産に登録された、悠久の歴史が流れる熊野川。私たちは、熊野川と共に生き、川を守ってきました。この熊野川の清流と川と結びついた生活文化をいつまでも後世に残していきたい…。川と結びついた歴史や生活文化にふれながら「熊野川」を体感し、人と自然との関わりについて改めて一緒に考えてみませんか。

川の参詣道「熊野川」

熊野三山への参詣道は多くのルートがありますが、「熊野本宮大社」と「熊野速玉大社」との間を、川舟で行き来したことから、この熊野川は「川の参詣道」として川自体が世界で初めて世界遺産に登録されました。

川又(川端)街道

本宮に参拝した上皇や貴族たちの熊野詣は、熊野川を舟で新宮へと下りましたが、庶民の大多数は楊枝の渡しで三重県側に渡り、乙基の渡しまで熊野川左岸の崖沿いを歩きました。道路工事によって古道の大半を失いましたが、宣旨帰りや比丘尼転びなど、昔を偲ばせる険しい道も残っています。

熊野川は魅力でいっぱい!

かつて熊野川は熊野三山を結ぶ「川の参詣道」として、また、「筏流し」(材木の流通)などの水上交通が大変盛んでした。そして、熊野川の恩恵を受けながら、熊野川流域では川と結びついた生活文化がありました。川と共に生き、川を守ってきた熊野川流域の住民と川舟船頭・語り部がつくる熊野川体感塾では、地元の人々と一緒に、地域の財産である熊野川の清流や個性豊かな生活文化を後世に伝えていきたいと考えています。川又(川端)街道を歩いて歴史を偲んだり、川舟に揺られながら人と川の関わり方について考えたり、熊野川流域の生活や文化にふれる体験と地域の人との出会いを通じて、世界遺産・熊野川の魅力をまるごと感じてみませんか。



名古屋	約3時間	新宮	約10分	紀宝町
大阪	約4時間	新宮	約10分	紀宝町
名古屋	約50分	新宮	約35分	紀宝町
大阪	約2時間20分	新宮	約30分	紀宝町

編集・発行 熊野川体感塾
お問い合わせ先 紀宝町役場企画調整課
〒519-5701 三重県南牟婁郡紀宝町鶴殿324番地
TEL.0735-33-0334 FAX.0735-32-1244
ホームページ http://www.town.kiho.mie.jp/

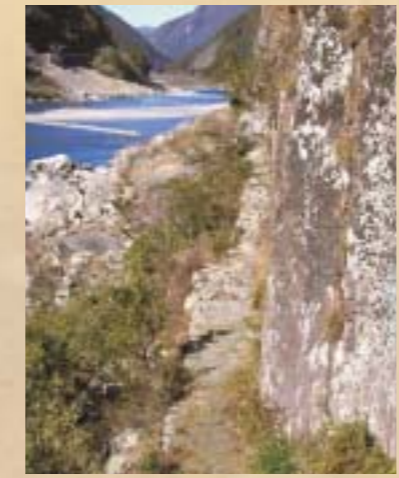
熊野川周辺 体感マップ



熊野川体感ツアーの様子



1 楊枝薬師堂
ようじやくしどう
京都三十三間堂の棟木として柳の大木を出した所と言われ、文楽や浄瑠璃でも有名である。



2 宣旨帰り
せんじがえ
後白河法皇からの宣旨を持った勅使が引き返さざるを得なかった難所。



3 飛鉢ノ峰
ひばつのみね
びくにころ
本街道の最難所、比丘尼が転んだという伝説があり、「ビクニ」という字名が故事を今に伝えている。



5 釣鐘石
つりがねいし
釣鐘状の岩があり、川舟で近づくと道力満点。



6 屋嶋
ひるじま
熊野権現が昼食した所といわれています。また、天照大神と熊野権現が碁を遊んだところとも。たしかに島の上部には碁盤の目のような縦、横の筋があります。



8 壘石
たたまいし
壘をななめに立てたような柱状節理。

9 御船島
みふねじま
速玉大社・例大祭の「御船祭」で、諸手船、神幸船、早船が島を廻ることからこの名がある。

凡例
● 歴史を感じられる見所
● 自然が創り出した見所
● 道の駅、キャンプ場、遊歩道
i インフォメーション

魚とり
森の恵みを満ちた豊かな水は、アユ・ウナギ・コイ・スズキ・ノボリ・カワエビ・モクスガニなど多くの魚類を育み、河岸に暮らす人々に貴重な食物を提供してきました。そこに種々の漁法が生まれ、老若男女、四季折々の楽しさと実益を兼ねた「魚とり」が行われています。
※アユ・ウナギ・ノボリを捕る場合は、遊漁券が必要です。
お問い合わせ 熊野川漁業協同組合 TEL.0735-21-4193
熊野川漁業協同組合連合協議会 TEL.0735-28-2380

植物
川の両岸が産になっているところが多く、大雨による増水に適応した固有の種類の植物が自生しています。日本の中でもこの地域だけに自生する貴重な植物の一群として、ドロシモツケ・ドロニガナ・ミギハトダシバなどがあります。私たちは、川と共にこの貴重な植物を守り続けていきたいと思っています。
ドロシモツケ ミギハトダシバ

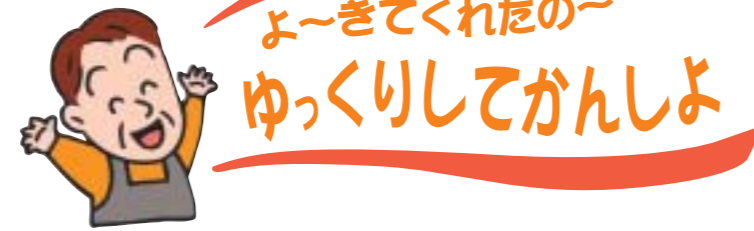
鳥
川舟で川下りをしていると、カワセミ・ミサゴ・サギ類・カモ類など、様々な鳥たちに出会うことができます。こうした光景を実際に見て、体で感じることで、自然を身近に考えていただける一つのきっかけになればと思います。
カワセミ ダイサギ

古道散策所要時間・距離
飛雪ノ瀧 ↔ 宣旨帰り……徒歩約60分 距離約3km
宣旨帰り ↔ 蛇和田ノ瀧……徒歩約30分 距離約1km
川舟下り所要時間
道の駅 → 屋嶋……川舟約40分
蛇和田ノ瀧 → 屋嶋……川舟約30分
屋嶋 → 熊野速玉大社前……川舟約40分

拡大図



浅里周辺MAP



ひせつのたき
② 飛雪ノ瀧
高さ30m・幅12m。
紀州藩主 徳川頼宣が天から舞い降りるように流れ落ちる飛沫を雪にたとえたことから名づけられ、上流の二ノ瀧にかけて八幡神社の神域になっている。



③ 二ノ瀧



④ 稻荷神社



⑤ 子安地蔵



① 展望台から望む熊野川と浅里の田園風景



体感プラン その①

悠久の熊野川をゆっくりと川舟で下る

昔の人が難行苦行して歩いた、「宣旨帰り」と呼ばれるこの街道の難所を歩いた後、川舟に乗り、櫓(ろ)や櫂(かい)・棹(さお)を使ってゆっくりと熊野川を下ります。歴史と兩岸の風景、川の音、風の音などを感じていただけます。

行 程 ◆約4時間のコース◆

飛雪ノ瀧発 → 古道散策(宣旨帰り)

→ 川舟による川下り → 飛雪ノ瀧着

体感プラン その②

昔の参詣者の旅を体感しよう

庶民が歩いた熊野川沿いの古道「宣旨帰り」を歩いて昔を偲び、川の参詣道として世界遺産登録された熊野川を川舟で下って、熊野速玉大社へ。あなたも昔の参詣者の旅を体感してみませんか。

行 程 ◆約6時間のコース◆

飛雪ノ瀧発 → 古道散策(宣旨帰り)

→ 川舟による川下り → 熊野速玉大社

→ 成川の渡し → 町民バス → 飛雪ノ瀧着

その他のいろいろ体験できます



▲川下り(通年)
悠久の熊野川を川舟がゆく



▲古道散策(通年)
熊野川沿いの古道(宣旨帰り)を歩く



▲かざら細工(通年)



▲竹細工(通年)



▲鮎釣り(夏〜秋)
エビ捕り(夏) 河原では手長エビなどが捕れます



※写真の体験は一例です。

熊野川の川舟

川舟の歴史

大峰山と大台ヶ原山系を源流とする熊野川の中で、中下流域の新宮・本宮間は九里八丁と呼ばれ、かつては地域の物産である木材、炭、石炭や地域住民の物資の輸送で大いに賑わいました。

また、平安・鎌倉時代には、熊野三山への参詣道として川舟が利用され、その後も旅人や土地の人々は、対岸の新宮に向かうために「渡し」を使っていましたが、時代は陸上交通へと移り、昭和三十年代には舟運の役割を終えました。

現在、車両に役割を譲り、大型の川舟(段平)は姿を消しましたが、熊野川独特の川舟は健在です。



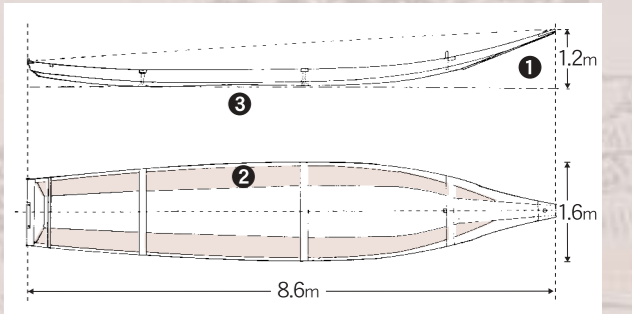
熊野川の川舟

川舟の構造

●川舟の材料は？

川舟に使用する木材は、スギ、ヒノキ、ケヤキ、カシの4種類で、すべて熊野川流域の森林から調達しています。軽くて腐りにくく、粘りがあるなどの要素が必要で、スギの淡い赤みが一番適しており、船体や床板のほとんど(約70%)がスギ、船縁や船内の一部にはヒノキとケヤキ、「あおり」と呼ばれる船底を川底や岩との衝突から守る補強材はカシというふうに、木材が使い分けられています。

特にスギ材は、長さ10m、直径1mくらいの大径材が必要なことから、直接山で木を見極めて良材を確保します。原木を製材後、1年以上乾燥させてから各部材を切り出して細工していきますが、常に木材の性質に合わせて個々に工夫して仕上げています。



①船首が大きく反り返っているのは？

急な流れの影響を受けにくく、熊野川は浅い所も多いため、棹をさすときに邪魔にならないようになっています。また、河原に合わせて接岸しやすい利点があります。

②船底に斜めの部分があるのは？

急流でも転覆しないようにバランスを保っています。

③船底の反りは？

急流に錨を打った際に安定させるため、船底中央部を2、3cm上げています。

熊野川の川舟

川舟の形はそれぞれの川によって異なります。熊野川の川舟は、「暴れ川」とも言われた熊野川の激しい流れに対応するため、船首が大きく反り返り、船底は平らで、斜めになった部分もあるのが大きな特徴となっています。

生活の知恵というのか、実に良く考えられていて、形、断面、船底のくぼみはもとより、船体を造る板や釘などの材料に至るまで、全てが手の加えようのないまでに工夫されており、急流・強風は言うまでもなく、数センチの水深など、どんな条件にでも対応できる構造となっています。

三反帆

表紙の写真が三反帆の川舟です。この舟は全長8.6m、幅約1.6mのもので、天竺木綿で織られた3枚の帆が5mほどの帆柱に掲げられています。船外機を使わないので水の流れる音や鳥が羽ばたく音などを聞きながら、自然と一体となったような感覚で、ゆっくりと優雅に熊野川を楽しむことができます。

熊野川流域で唯一の船大工 谷上嘉一さん



子供の頃から熊野川と共に生き、暮らしてきた谷上さんは、現在では熊野川流域で川舟を造る唯一の船大工として川舟文化を伝えています。体感ツアーで船頭を務め、「川舟を通して、一人でも多くの人に熊野川の雄大な自然に触れていただき、川と森の大切さをわかってもらえれば」と話しています。

川舟についてもっと知りたい方
TEL0735-21-0313(谷上)